

再生事例に見る従前従後の空間比較模型 (イギリス・ヒューム地区 1/2000)

関西大学
戦略的研究基盤
団地再編
リーフレット
Re-DANCHI leaflet

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

SEPTEMBER
2012
VOL.084

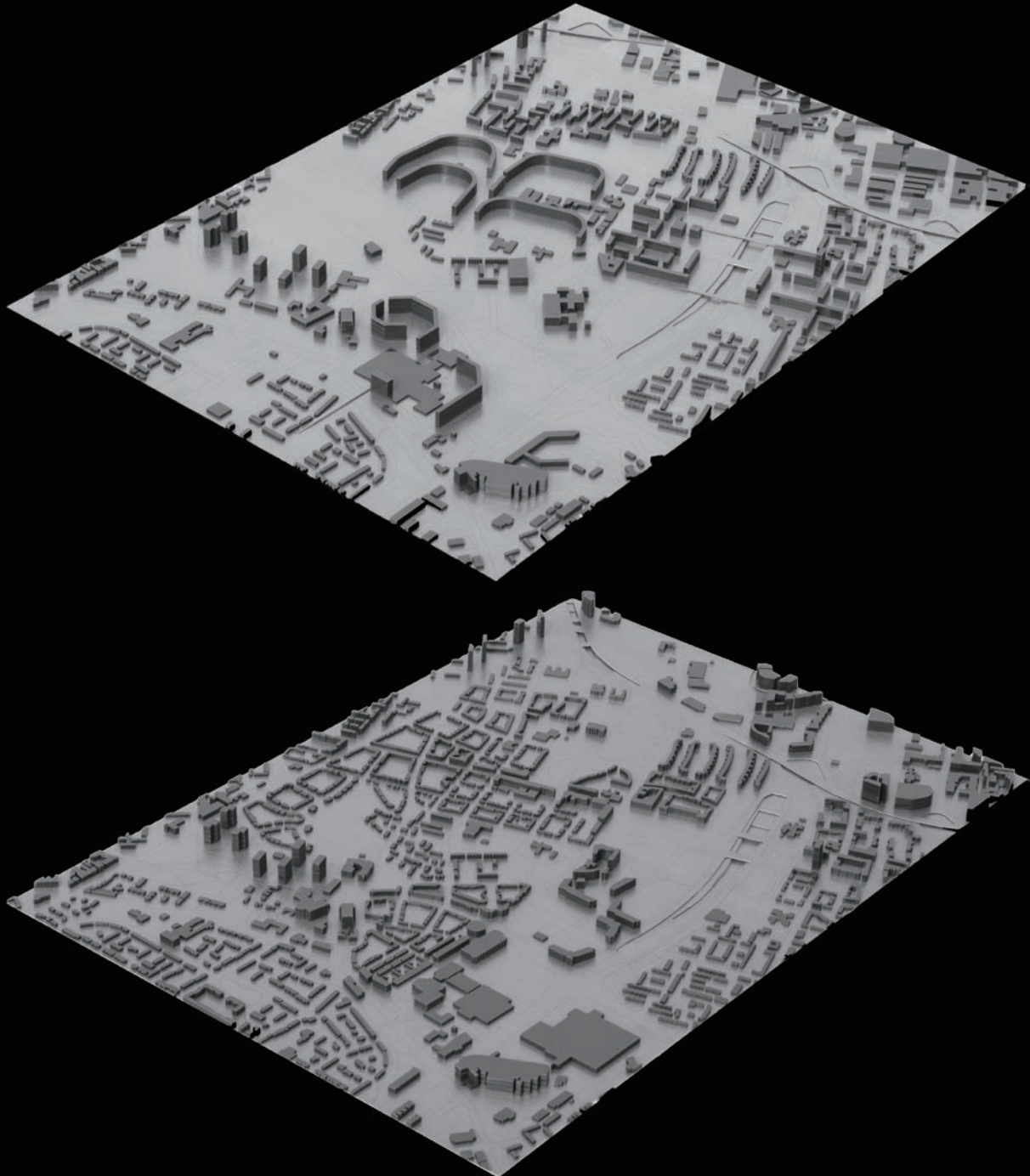


図1. 上段：ヒューム地区（従前：1980年頃） 下段：ヒューム地区（従後：2011年）

空間比較模型の制作

海外の団地再生では、再生事業の前と後で空間を大きく改変している事例が多く見られる。かつての大規模で画一的な住棟で作られていた団地空間を、住棟を撤去し、新たな街路を導入し、小規模で多様な住棟への建替える例が見られる。この再生事業による「団地空間」の変化を端的に表す物として団地

全体の模型を作成した。様々な団地を同一の縮尺の模型とすることで、空間の特徴と変化を容易に把握できるようになった。

本稿では、1/2000の縮尺で制作したイギリス・マンチェスターのヒューム地区の再生事業前後の模型について、その空間変化について分析を行うものである。

1. ヒューム地区の特徴

イギリス・マンチェスターのヒューム地区は、1990年代の再生事業によりまちの形態を根本的に変えている地区である。1960年代までは、超高密度な人口密度の住宅が広がるスラム地区であった。1960年代に、スラムクリアランス事業が実施され、街路の廃止によるスーパーブロックの導入と、長大な住棟や画一的な住棟が工業化工法により建設された。しかし、その後1980年代には、都市の荒廃の典型的な現象が発生した。このように荒廃したヒューム地区を再生させるため、1992年から再び再開発事業（再生事業）が行われた。この再生事業により、スーパーブロックの解体と過去の街路の復活、沿道性を重視した戸建てや小規模な低層住棟による街区型の地区へと変化した。

従前は1980年頃、従後は2011年時点として、A1パネル1枚のサイズ、縮尺1/2000で制作した。



図2. ヒューム地区全景（従前：1980年頃）

2. ヒューム地区の空間変化

2-1. 真上からの比較

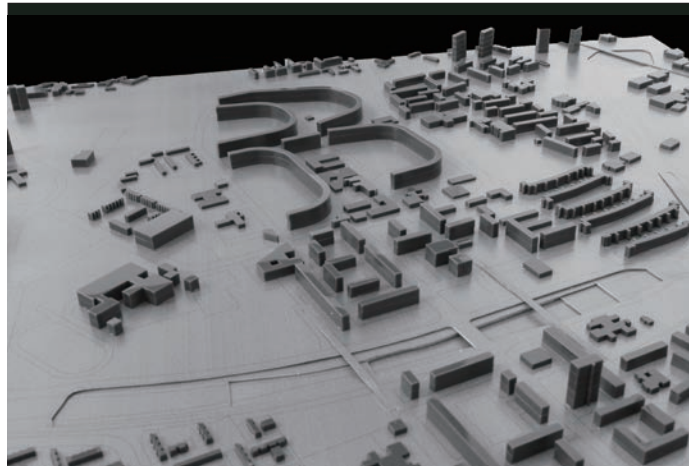


図4. 北東からのアングル（従前：1980年頃）



図5. 北東からのアングル（従後：2011年）



図3. ヒューム地区全景（従後：2011年）

ヒューム地区の再生事業による団地全体の空間変化は一目瞭然である。真上から見た従前（図2）と従後（図3）を見比べると、従前はスーパーブロックと長大住棟による地区の空間の様子が見て取れ、従後は小規模な規模の建物が多く配置されていることが見て取れる。

従前のヒューム地区の模型（図2）からは、住棟近くの道路がどのように配置されているのかを把握することができない。また、建物以外のスペースについては、オープンスペースであることが読み取れるが、その場所の使い方等の特徴を読み取ることができない。

一方、従後のヒューム地区の模型（図3）からは、小規模な住棟の配置状況から、道路の形状を読み取ることができる。また、住棟が街区型で配置されているため、街区の形を読み取ることもでき、街区内部に住民用のオープンスペースが確保されていることがわかる。

2-2. 俯瞰からの比較

ほぼ同じアングルから撮影した写真をセットに

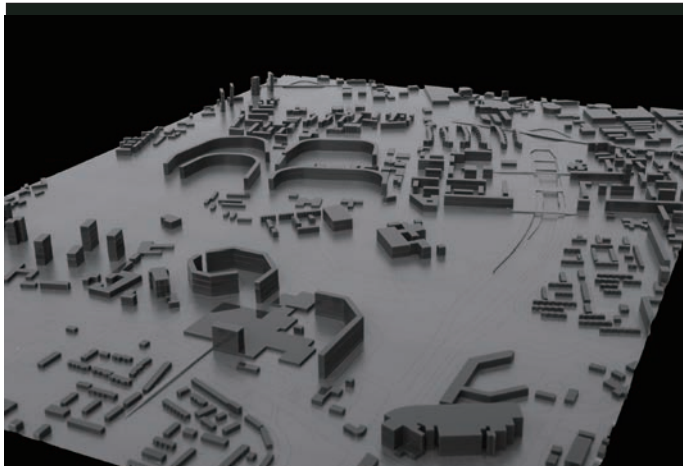


図6. 南東からのアングル（従前：1980年頃）

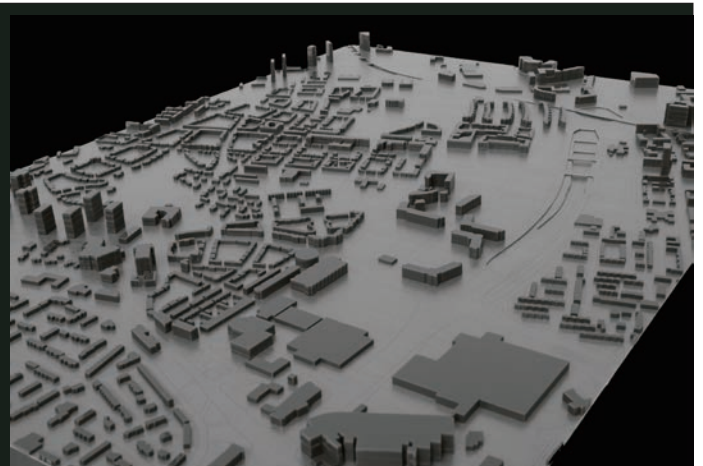


図7. 南東からのアングル（従後：2011年）

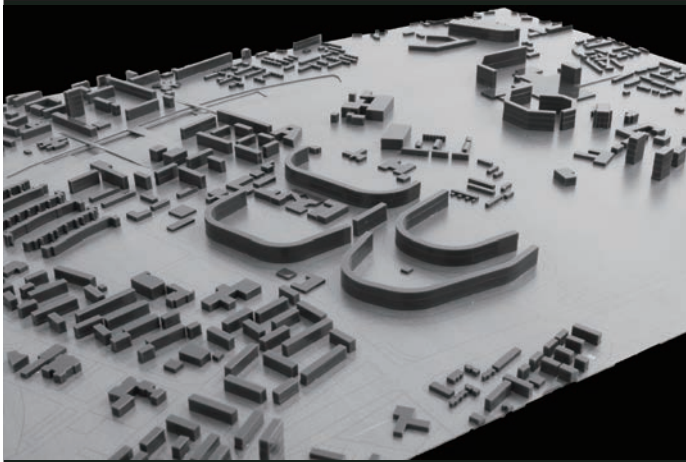


図 8. 北西からのアングル (従前：1980 年頃)

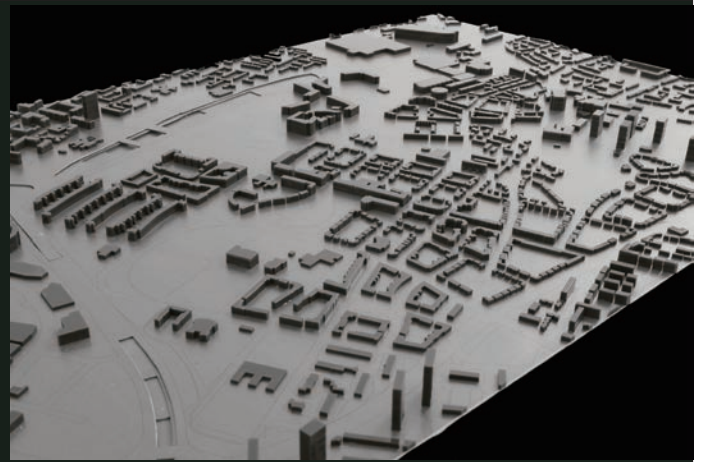


図 9. 北西からのアングル (従後：2011 年)

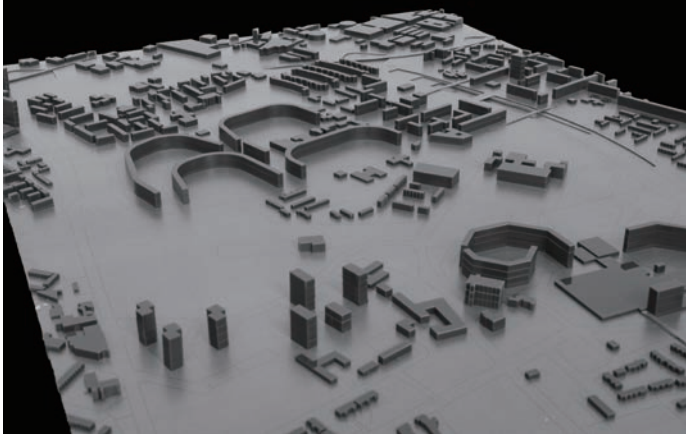


図 10. 南西からのアングル (従前：1980 年頃)

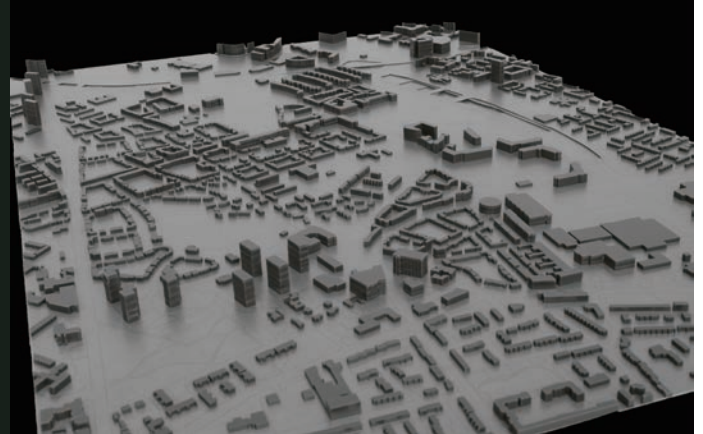


図 11. 南西からのアングル (従後：2011 年)

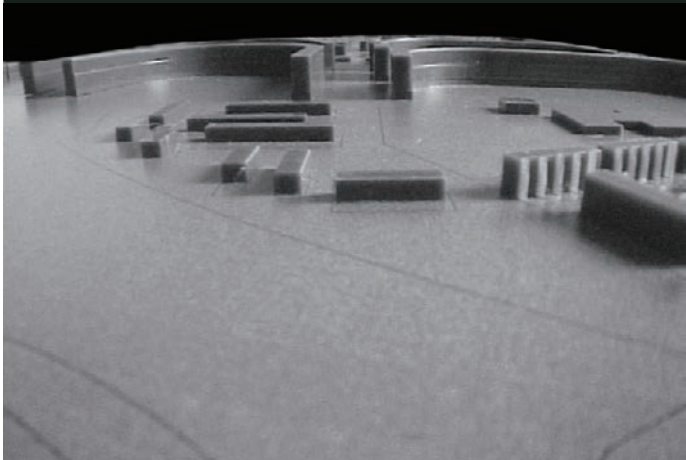


図 12. シュノーケルカメラの低いアングル (従前：1980 年頃)

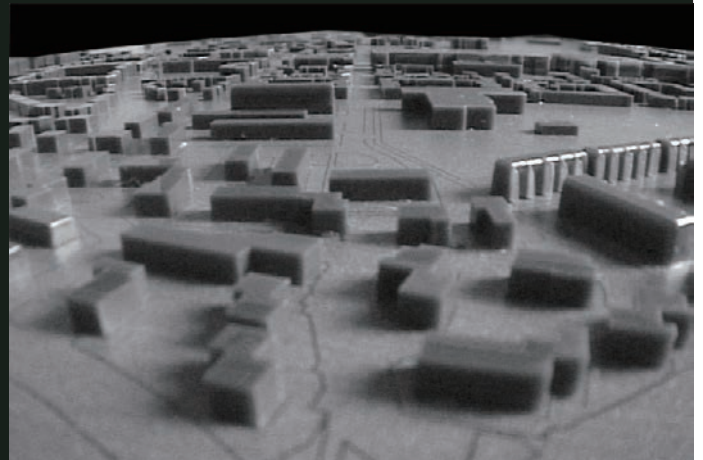


図 13. シュノーケルカメラの低いアングル (従後：2011 年)

して図 4～図 11 に示す。ヒューム地区の場合、地区全体の空間が大きく変化しており、共通して建つわずかな建物を目印にしないと、同じ地区、同じアングルの写真であること

が読み取ることができなくなっている。
2-3. 低アングルからの比較
 シュノーケルカメラを用いた低いアングルの写真を図 12、図 13 に示

す。従前 (図 12) が広大なオープンスペースに巨大な建物が建つ様子が分かり、従後 (図 13) は小規模な建物が建ち並ぶ様子が見て取れる。

関連リーフレット：001、004、028、055

『再生事例に見る従前従後の空間比較模型
 (イギリス・ヒューム地区 1/2000)』

執筆：倉知 徹 (関西大学 先端科学技術推進機構)
 宮崎 篤徳 (" ")
 増田 和起 (関西大学大学院 博士後期課程)

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編 (再生・更新) 手法に関する技術開発研究 (平成 23 年度～平成 27 年度)」によって作成された。

発行：2012 年 9 月

関西大学
 先端科学技術推進機構 地域再生センター
 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
 先端科学技術推進機 4F 団地再編プロジェクト室
 Tel : 06-6368-1111 (内線 :6720)
 URL : <http://ksdp.jimdo.com/>